



日本国際情報学会会長

近藤 大博
こんどう もとひろ



「図書館が整備される前の時代」

終戦の年の昭和20（一九四五）年生まれだ。今はなき豊島区立日出小学校を経て、中学校（こちらもなき稚司ヶ谷中学校、跡地に現・南池袋小学校）に進んだのは昭和33年、一年前の終戦白書は「もはや戦後ではない」と規定していたが、社会全体が豊かになつてきたとは言いがた、中学校には図書館はなかった。箱詰めされた図書が各教室に巡回してくるのだった。その箱から読みたい本を取り出し、書名をノートに記し、借りるシステムだった。

国語担当は伊藤繁洪先生（現・豊島区図書館専門研究員）で、一年生のおり、北原白秋、高村光太郎、宮

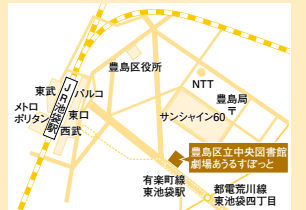
と しょ かん づう しん 図書館通信



トピックス

- 巻頭言 日本国際情報学会会長 近藤 大博……………1ページ
- 図書館と私 池袋図書館運営専門員 須長 彩子……………2ページ
- ザ・レファレンス 郷土資料館学芸員 秋山 伸一……………2ページ
- 生涯の一冊 「池袋モンパルナスの空」代表 小池 陸子……………2ページ
- 二人の明治ルネッサンス人 豊島区図書館専門研究員 水谷 千尋……………3ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー……………4ページ

発行 ●豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五一一
ライズアリーナビル四階・五階 〒170-8442
電話 ●03-3983-7861
FAX ●03-3983-9904
ホームページ ●http://www.library.toshima.tokyo.jp/
発行日 ●平成24年10月



沢賢治などの詩の暗記が課題のときがあった。同級生の多くが、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を比較的容易に暗誦できた。その秘密は中学校の隣の真乗院（立石正智住職）にあった。真乗院がその施設の一部を「雨にも風にも負けぬ図書室」として、開放してくれていたのだ。この図書室の存在を伊藤先生に教えていただき、級友とともに、クラブ活動のあとや休日などに足繁く通った。本棚には、少年・少女用の伝記・文学全集などが満載で、壁二面に「雨ニモマケズ」の詩が貼ってあった。だから、そこに通う生徒は、宮沢賢治の詩を自然と覚えてしまっていたのだ。

豊島区制施行80周年&豊島区立図書館開館54周年

新航路 [24]

平成24年10月1日は、豊島区が誕生して80年の記念すべき日です。昭和7年10月1日に巣鴨町、西巣鴨町、高田町、長崎町が合併して誕生しました。『豊島区史』（昭和26年6月発行）によると「昭和七年十月一日、池袋一丁目六四二番地の旧荒玉水道町村組合役場庁舎に『豊島区役所』の門標を掲げ、同日午前八時区長井上桂は、全職員に対して任命の辞令を交付し、各職員の配属を定めて開庁し、ここに豊島区の自治行政事務の第一歩を華々しく踏み出したのである。」とあります。

では、豊島区立図書館はいつごろ開館したのでしょうか？これも『豊島区史（年表編）』（昭和57年3月発行）によると、今から54年前の「昭和33年6月1日 区立図書館開館。豊島振興会館3階」とあります。この「豊島振興会館」とは現在の区役所分庁舎のことと、当時の蔵書数は1万冊に満たないとの記録があります。その後、昭和43年に巣鴨図書館、昭和46年に千早図書館が開館し、引

き続き目白、駒込、池袋、稚司ヶ谷、上池袋図書館が開館しました。ご承知のとおり、稚司ヶ谷は図書貸出ししコーナーになっています。区役所の振興会館にあった中央図書館は、昭和54年に東池袋五丁目の春日通り沿いに移転し、平成19年には現在の東池袋四丁目のライズアリーナビルに移転、開館しました。

約50年前にできた図書館は、図書館サービスとしては規模の小さいものでしたが、今は蔵書数も区全体で75万冊を超え、さまざまなサービスを提供しています。そして、現在のIT化社会は、情報収集を本や雑誌などからインターネットへと変えてきています。図書館でも利用者の皆さまから様々なIT機器の使用を希望される意見が増えています。すると、「キータッチの音がうるさい」いやいや「スマホならいいだろう」など、多くの意見をいただきます。今までの静かに本を読むスタイルとどのように共存していけばよいのか……。50年経つと、いろいろな問題が起きてきます。

Current & Encounter

『嘘の効用』

豊島区図書館行政政策顧問 粕谷 一希

少し話題を変えよう。すぐれた学者は面白い随筆を書く。末弘蔵太郎（明治21年生れ、昭和26年死去）は日本の法学者として、ドイツの概念法学に対し法社会学的発想の判例主義を打ち出し、東大セツルメントを創った。戦後は労働法の権威として労働法の制定に係わり、中央労働委員会初代会長を務めた。その末弘さんに「嘘の効用」という書物がある。大正十二年改造社から出たものだが、翌十三年末には三十七刷になっている。「嘘をついてはいけない」という日本の発想を逆手に取ったもので多くの人々はギョッとしたのであろう。題名がよかった。

中味は真面目なもので、大岡越前守が大岡政談になってゆく例を引いて裁判官が人情味のある判決を言い渡す裁判には、上手に嘘をつくことが多かつたと、世間と法律の実際を語ってゆく。

法律とは時間が経つにつれて合わなくなつてゆく。社会慣習が変つてゆくからある時点での法律が合わなくなるのは当然で、社会が変るにつれて法律も変らなければならない。法制史が歴史として成立するのも当然で、法制史に面白い学者も多い。

この法律と社会のズレを裁判官は上手に解釈して（嘘をついて）生きた法律の執行にならなければならない。家族、財産、相続、結婚離婚、労使関係、農村の地主——小作人関係と、問題は無限に広がってゆく。

われわれは講義を聞けなかったが、ガンちゃん、ガンちゃんと愛称は聞いており、その存在は実感できた。また末弘さんがつくったセツルメントは戦時時にはマルクス主義、共産党員が占拠しており急進化してしまつた。われわれは末弘さんまで戻って法律の体系と進化を確認すべきだろう。今日の「嘘の効用」が必要のように思われる。行政学の辻清明氏はモジツテ「陣笠の効用」を書いた。

一九四五年、北京生まれ、豊島区稚司ヶ谷育ち。東京大学文学部東洋史学科卒業。中央公論編集長、米シカゴ大学日本研究所客員教授、米アトランタ・ジャーナル客員論評委員、外交フォーラム編集長、日本大学大学院教授などを歴任。現在、松下政経塾評議員、早稲田大学・東京情報大学・日本大学講師、神奈川県中友好協会理事、BS朝日番組審議会委員、日本国際情報学会会長などを兼務。著書に、「漂流する日本」、浮遊する日本など。

生涯の一冊 (25)



書名:『赤毛のアン』(新装版) (講談社 青い鳥文庫81-2)
作者: L・M・モンゴメリ
訳者: 村岡花子
絵: HACCAN
発行: 講談社



「池袋モンパルナスの会」代表 小池 陸子

「赤毛のアン」

「赤毛のアン」と出会ったのは、私が中等科一年生の冬の頃でした。物語の中では、アンの上「ピョク」という言葉で、アンは言い表せない程のショックを受け、マッシュウとマリラに引き取られる事が決まり「ぼつ」としました。アンの感情溢れる言葉や環境に読みだしたら涙が止まらず、また笑いが止まらないので時間の経つのを忘れてしまい、おふとんにまで持ち込み読み続けたのを覚えています。そしてその後の色々なエピソードにドキドキハラハラして何度も読み直したほどでした。

それからは、アンシリーズが出るのが待ち遠しく物語と共にアンの成長を楽しみました。現在は講談社の「青い鳥文庫」で新装となっており、何十年ぶりに読み直しました。今度はもう読み慣れているのでフツと微笑みながら読みましたが、やはり涙を抑えることが出来ないアンもありました。訳者の村岡花子さんは、第二次世界大戦の始まる少し前に一緒に女性や子ども向けの本や雑誌の編集の仕事をしていて、カナダ人ミス・ショーから渡された本がこの「アン・オブ・グリーン・ゲイブル」で、戦時下外に光が漏れないようにして訳されたそうです。そして1959年(昭和34年)に「女性や子どもたちが夢と希望を持って健やかに生きて

欲しい」と願われて『赤毛のアン』として出版されました。先日ある小学校の先生方への「子どもの時に読んだ本で心に残っている本は？」という問いに、3分の1の先生方が『赤毛のアン』をあげていらっしゃいました。強い志を持つて教員の資格を取ったアンに共感されているのだと思います。アンの好きなものは花と自然。家族と友人と人々。花は桜が一番好きだと言っています。美しい島の風景とまわりの人々との関わり、何と云っても不幸な環境にもめげず優しさで運しさを備え、前向きに生きていく強い意志。これからも受け継がれていくべき作品です。



「法明寺の桜」 画: 小池 俊夫

図書館と私 13

池袋図書館運営専門員 須長 彩子

温かい言葉

私は豊島区で働く以前、大学図書館でアルバイトをしていた時期があったのだが、そこで働き始めた当初は司書の資格を持っていなかった。それまでも図書館は日常的に利用していたが、あくまでも楽しみの場所であって、働くということは考えてもいなかったのだ。ところがそんな時、とある縁で大学図書館での仕事に就くことになり、そこで図書館の仕事の奥深さにふれることとなった。そして、図書館の仕事をもっと知りたいと思うようになり、司書の資格を取ることを決めたのだ。司書の仕事については、働きながらある程度の知識は身につけていたが、きちんと学んだことはなかった。そこで、司書講習を受ける準備をしようとする区図書館へ行き、カウンターで講習に必要な資料について尋ねた。すると、奥から男性の職員が出てきて資料の案内してくれたのだが、さらに講習を受ける上でのアドバイスや、授業のポイントを話してくださった。聞けば、その方も講習を受けて

司書資格を取ったとかで、最後に「何かあったらいつでも来てください」と声をかけられた。職場を休んで講習を受けに行く手前、必ず受からないといけないというプレッシャーを感じていた私にとって、その温かい言葉は何より嬉しかった。資格は無事に取得でき、その後、私は縁があって豊島区の図書館で勤務することになった。しかも、そのアドバイスをくださった方とわずかの間だったが、働く機会にも恵まれた。だいぶ前のことで覚えていっしょらないだろうと思ったし、同僚となった気恥ずかしさから名乗ることはできなかったが、いまでもあの時のことははっきりと覚えている。図書館には日々、様々なレファレンス(調査・相談)が寄せられるが、それが我々にとって単純なものであっても、相談者の生活に大きく関わっていることがある。答える側になった今も、あの時に感じた気持ちを忘れず、利用者の立場に立った図書館サービスに努めていきたい。

東池袋のサンシャインシティの敷地には、かつてスガモブリズンがあったと祖母から聞きましたが、それは本当ですか？

ザ・レファレンス

一豊島区の歴史・文化がわかる本①- ご案内: 秋山 伸一(あきやま しんいち) 郷土資料館学芸員

本当です。より正確には、1945年11月から1952年3月までの間、スガモブリズンと呼ばれていました。

まずはスガモブリズン前史についてみておきましょう。

1895(明治28)年、現在の豊島区東池袋三丁目のサンシャインシティの敷地よりも4倍ほど広い敷地(北豊島郡巢鴨村大字向原)に警視庁 監獄巢鴨支署が設置されます。その後、1897年に巢鴨監獄署、1903年に巢鴨監獄、1922年に巢鴨刑務所と改称。1937年に刑務所機能は移転し東京 拘置所となります。そして、1945年8月の敗戦の後アメリカ軍に接收されて、冒頭に記した期間スガモブリズンとして約四千数百名の戦争犯罪者(戦犯)容疑者と受刑者が収容されました。スガモブリズン時代には、極東国際軍事裁判で死刑宣告を受けたA級戦犯7名の処刑もここで行われました。

小林弘忠著『巢鴨ブリズン』(中央公論社、1999年)【現在は中公文庫(中央公論新社)にも収められています】は、戦犯死刑囚の最期を看取った初代戦犯 教諭師花山信勝の遺稿やメモ類をもとに、スガモブリズンでの戦犯らの日常を明らかにしています。教諭師という立場からの描写は興味深い内容になっています。内海愛子著『スガモブリズン-戦犯たちの平和運動-』(吉川弘文館、2004年)は、スガモブリズンに収容されたBC級戦犯の精神状態を含めた生活が記され

るほか、再軍備に向かう政府に対して戦争反対の声をあげるなど、これまで知られていなかった戦犯たちの行動についても明らかにされています。

茶園義男編著『図説戦争裁判スガモブリズン事典』(日本図書センター、1994年)は、スガモブリズンに関するあれこれを図版や写真を交えてわかりやすくまとめたものです。巻末には人名索引と事項索引が付されており検索しやすくなっています。スガモブリズンの詳細についてより突っ込んで知りたい方にお薦めの一冊です。

さて、その後、1952年4月にはスガモブリズンの管理が実質的に日本側に移管され、巢鴨刑務所と改称。1962年に巢鴨刑務所は廃庁となりますが、1971年に葛飾区小菅に移転するまで東京拘置所としての機能は残ります。そして、1971年5月に東京拘置所の解体工事が開始され、1978年4月のサンシャイン60展望台のオープン、同年10月のサンシャインシティのオープンと多くの人たちが集まる商業施設へと変貌を遂げていくのです。

- ※1 教諭師…刑務所で受刑者らに悪を悔い正しい道を歩むように教え諭す人。
※2 刑務所…懲役、禁錮または拘留に処せられた者を、決められた期間、収容、監禁しておくところ。
※3 拘置所…死刑囚、勾留した被疑者およびすでに起訴されている刑事被告人のうち勾留状によって拘束されている者などを収容しておくところ。

二人の「明治ルネッサンス人」◆ 田口卯吉と根津嘉一郎

(初代)

<最終回>

豊島区図書館専門研究員 水谷 千尋

1937年生。東大農業経済学科卒。教育学研究員。図書出版局長、秀麗社社長、豊島区新中央図書館有識者懇談会委員を経て現職。



瓦屋根に換気設備(越屋根)を取り付けた近代養蚕農家の原型
田島弥平旧宅。群馬県伊勢崎市境島村地区
(写真協力:群馬県企画部世界遺産推進課)

去る7月、文化庁はユネスコの世界遺産に群馬県「富岡製糸場と絹産業遺産群」を推薦した。明治維新殖産興業の一翼であった富岡製糸工場(明治5年設立)のほか、「絹産業遺産群」3点中に左の養蚕農家が加わったのは意義深

い。他の2点高山社跡と荒船風穴(とも)も養蚕技術の発達普及に果たした役割は大きかった。個人宅遺跡は、明治初期の養蚕技術リーダー田島弥平旧宅である。弥平は養蚕飼育法のひとつ、蚕室通風の清涼育法を開発し、『養蚕新論』正統を著し、全国からの伝習生を自宅一階の蚕室で実地教育(桑拓園)し、普及させた。弥平宅のある旧島村(現境島村)は、東武伊勢崎線沿線、利根川本流河原にあり、渋沢栄一が育った血洗島が近くにある。島村は、両毛・東武鉄道利根川鉄橋架橋工事が難航したように洪水多発地域であった。村民は洪水と闘い、河原一帯に桑を植え江戸期以降養蚕を盛んにした。河原風に吹かれ蠶卵の付かない桑葉に加え技術改良によって良繭・蚕種を生産した。「利根川と荒川の悶雷遊ぶ」―東武東上線荒川上流域、「小川裏絹」の産地、小川町で生まれ、秩父に育った金子兜太の句である。落雷多発地帯で「クワバラ、桑原」と桑畑に逃げ込む風物句でもあるが、雷雨の恵みは桑葉の害虫卵を洗除した。

利根の河原からイタリア・ミラノへ

養蚕農家にとって春蚕・夏蚕、秋蚕と蚕の生育は、供養と気温通風の管理など、一時も気を抜けない毎日だ。4回目休眠後の熟蚕期などは徹夜に及ぶ。兜太句「山脈のひと隅あかし蚕のねむり」「人影に蚕籠の疲れ霧の家」と養蚕農家の格闘と疲労をうたう。「おおかみが蚕籠の村を歩いてた」―この句は幻想風景句である。蚕室に忍び込み蚕を食い殺す鼠や鼯類を、狼が滅ぼす。秩父三峯神社の眷属守護獣狼の加護を養蚕農民に代わってうたっている。「ここに獣の悲鳴狭霧の繭籠」、狼は蚕室暖房失火のうち早く発見する。養蚕農家門口には三峯神社護符が貼ってある。秩父夜祭りにほかかて絹市が開かれていた。

明治5年、横浜開港場での外商・売込商の買いたたきや相場崩れに対抗するため弥平たちは、渋沢栄一の指導で村民を社員に島村勤業社を設立し、島村産の蚕種輸出をめざした。田口卯吉の自由貿易経済論に沿った初期資本主義のキャンパニーであるが、発足は田口の『東京経済雑誌』論陣キャンペンより7年ほど早い。田口は渋沢栄一から島村勤業社の経済活動の聞き及んで、銘記し論考した可能性もある。

明治12年、15年4回にわたり、弥平、武平ら3人は、横浜から蒸気船に乗り、イタリアのミラノで、蚕種約3万6千枚を販売した。外国商人を経由しない直輸出であった。三井物産のサポートを得てかなりの成果をおさめた。蚕種は、熱帯のインド洋を越えれば熱死してしまつたため、太平洋、大西洋航路で輸送した。1840〜50年代のイタリア、フランスでは蚕に微粒粒子病が発生し、大打撃を被つたが、1867年にバスターが病原菌を発見し、克服にむかっていた。島村産蚕種の評価は高く、ミラノ直輸出は生糸蚕種輸出史の壮挙といえよう。

貴重なミラノ記念品に弥平の油絵肖像が遺された。弥平がトリノ美術学校を訪れ洋装の紳士肖像を描かせた。頸繫白絹のような繊細なタツ子、見事に描かれた利根川桑畑の武蔵両毛人士は、彼地で世界経済人としての気概と行動力、そして文化交流感覚を発揮等に用いた。村へ顕微鏡を持ち帰り微粒粒子病予防管理等に用いた。後に島村出身の橋本春雄、田島太郎両博士が蚕の遺伝研究で学士院賞を受賞した。

戦前生糸生産の町、前橋市郊外で、両親の養蚕格闘の中で育った画家の友人は、先年イスタンプルを訪れ、トルコ絨毯商人から「日本!どこから来たのか」「前橋から」と答えた。「マエハシ・シルクで織られたぞ」と昔の高級絨毯を誇らしく見せてくれた。英国リバプール港から船積みされたという。当時英国では「MAE BASHI」の商標で優良絹銘柄にリストアップされていた。

「両毛をマンチエスターに、横浜をリバプールの」田口卯吉の両毛鉄道設置構想と自由貿易論は、田島弥平たち武蔵両毛の生糸生産者の創意工夫と、アメリカでそれを普及した新井領一郎を含め、明治以降シルク関係者の奮闘と努力によって世界的評価を達成したのである。(完)

卯吉の自由貿易経済論に沿った初期資本主義のキャンパニーであるが、発足は田口の『東京経済雑誌』論陣キャンペンより7年ほど早い。田口は渋沢栄一から島村勤業社の経済活動の聞き及んで、銘記し論考した可能性もある。

明治12年、15年4回にわたり、弥平、武平ら3人は、横浜から蒸気船に乗り、イタリアのミラノで、蚕種約3万6千枚を販売した。外国商人を経由しない直輸出であった。三井物産のサポートを得てかなりの成果をおさめた。蚕種は、熱帯のインド洋を越えれば熱死してしまつたため、太平洋、大西洋航路で輸送した。1840〜50年代のイタリア、フランスでは蚕に微粒粒子病が発生し、大打撃を被つたが、1867年にバスターが病原菌を発見し、克服にむかっていた。島村産蚕種の評価は高く、ミラノ直輸出は生糸蚕種輸出史の壮挙といえよう。

貴重なミラノ記念品に弥平の油絵肖像が遺された。弥平がトリノ美術学校を訪れ洋装の紳士肖像を描かせた。頸繫白絹のような繊細なタツ子、見事に描かれた利根川桑畑の武蔵両毛人士は、彼地で世界経済人としての気概と行動力、そして文化交流感覚を発揮等に用いた。村へ顕微鏡を持ち帰り微粒粒子病予防管理等に用いた。後に島村出身の橋本春雄、田島太郎両博士が蚕の遺伝研究で学士院賞を受賞した。

あうるすぽっとからのお知らせ

おとなのヴィンテージミュージック

『Once Upon a Time あの頃の歌』

東京オリンピック、アポロの月面着陸、大阪万博開催…日本の高度成長期の1950年後半から1970年前半のヒットソングを、当時の街の写真や、和田誠が描いた著名人ポートレイトの映像とともに織る昭和音楽年代記です。当時誰もが耳にした懐かしいメロディを、佐藤允彦による新編曲でお届けします。

- 日時: 1月26日(土) 18:00開演 ○会場: あうるすぽっと
- 出演: 佐藤允彦トリオ (佐藤允彦pf、加藤真一b、村上寛ds) ほか [トークゲスト] 和田誠
- 演奏予定曲: 365歩のマーチ、フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン、ひょっこりひょうたん島、ウェストサイドストーリー、明るいナショナルCMソング ほか
- 料金: [全席指定] 一般 4,000円 豊島区民割引 3,500円
- チケット発売: 10月27日(土)

●チケット取扱い
あうるすぽっとチケットコール tel: 03-5391-0516
(あうるすぽっと3階劇場事務所にて販売/10:00~19:00/郵送可) ほか

【お問合せ】あうるすぽっと 03-5391-0751



あうるすぽっとプロデュース

『白い馬の物語』

大自然を思わせる馬頭琴の音色と、深く美しい少年の物語

国語の教科書に掲載されるなど、日本でも親しみの深い「スーホの白い馬」は、親から子へ受け継がれてきたモンゴルの民族楽器「馬頭琴」にまつわる民話です。今秋、あうるすぽっとでは『スーホの白い馬』をもとに新しく構成した『白い馬の物語』を女優・竹下景子による朗読と、モンゴル国立馬頭琴オーケストラが奏でる音色でお贈りします。

- 日時: 11月16日(金曜)~18日(日曜)
- 会場: あうるすぽっと

【チケット】全席指定

- 一般 4,000円
- 学生 2,500円 (当日要学生証提示)
- 子ども(中学生以下) 1,500円
- ☆豊島区民割引 3,500円 (在住・在勤/要証明書提示)
- ☆障害者割引 2,000円 (要障害者手帳提示、介護者1名まで)

■取扱い
あうるすぽっとチケットコール tel: 03-5391-0516
(あうるすぽっと3階劇場事務所にて販売/10:00~19:00/郵送可) ほか

【お問合せ】あうるすぽっと 03-5391-0751



あうるすぽっとホワイエにモンゴルの伝統的な移動式住居「ゲル」が出現。公演とあわせてご体験いただけます。

モンゴルの
おうち
「ゲル」
がやってくる!

図書館イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	10月	11月	12月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	★7日・おはなしこうさく会 午後2時	★4日・おはなしこうさく会 午後2時 ★25日・ボランティアによるおはなし会 午後2時 (虹のポケット)	★16日・冬のスペシャルおはなし会 午後2時
駒込図書館 (駒込地域文化 創造館)	土曜日 午後3時 (10/6はお休み)	—			★22日・おはなしのはこ クリスマススペシャル 午後3時
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時	★10日・ほんのじかん 工作 午後3時	★21日・ほんのじかん スライド 午後3時	★5日・ほんのじかん こどもえいかかい 午後3時「ごんぎつね」(19分) ★19日・ほんのじかん 冬のお楽しみスペシャル 午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下 ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※			★19日・さくらんぼクリスマス会 午後3時※
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時	—	★27日・たんぼぼえいかかい 午後2時 「北風のくれたテーブルかけ」(15分)	★10日・たんぼぼこうさくかい 午後2時 クリスマスの壁飾り作り ★24日・たんぼぼえいかかい 午後2時 「3丁目物語・秋まつりの夜」(25分)	★15日・たんぼぼクリスマスかい 午後2時
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時		★28日・かきくけこうさくかい 午後3時 「せかいにひとつのキラキラメダル」	★12日・あいうえおはなしかい クリスマススペシャル 午後3時
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分			

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

◆「10月27日は文字・活字文化の日」～図書館・おはなし会のご案内～

知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現を目指して、平成17年7月に文字・活字文化振興法が制定されました。それに伴い、毎年10月27日を「文字・活字文化の日」と定め、文字・活字文化についての関心と理解を広く深めるための様々な取組みが行なわれています。区内各図書館では、子どもたちに向けて下記の催しを行ないます。詳細は各図書館へお問い合わせください。

●文字・活字文化の日スペシャル

図書館	実施日時・実施期間	行事名	場所	内容
中央図書館	10月28日(日) 午後2時～	おはなし会	児童コーナー	絵本、ビッグブックの読み聞かせなど
駒込図書館	10月27日(土) 午後3時～	おはなしのはこ	駒込地域文化創造館(音楽室)	絵本の読み聞かせ、ビッグブック、紙芝居など
巣鴨図書館	10月24日(水) 午後3時～	ほんのじかん	地下会議室	絵本の読み聞かせ、手遊びなど
上池袋図書館	大規模改修工事のため臨時休館中です。			
池袋図書館	10月20日(土) 午後2時～	おはなしたんぼぼ	ワークルーム	絵本の読み聞かせ、紙芝居など
目白図書館	①10月23日(火) ～11月22日(木) ②10月24日(水) 午後3時～	にほんごは たのしい!	①児童特集コーナー ②集会室	①児童書展示 ②スペシャルおはなし会 (ビッグブック等の読み聞かせ)
千早図書館	10月24日(水) 午後3時30分～	ほんとこ おはなしかい	視聴覚室	暗くして耳で楽しむ、おはなし会

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

各図書館の 連絡先	中央図書館	3983-7861	池袋図書館	3985-7981
	駒込図書館	3940-5751	目白図書館	3950-7121
	巣鴨図書館	3910-3608	千早図書館	3955-8361
	上池袋図書館	3940-1779	蔵司が谷図書貸出コーナー	3590-1335

○千早図書館友の会主催○「千早進歩自由夢月例会」

※10月例会は事前申込制。12月例会は申込不要ですが定員は50名です(先着順)。

◆千早進歩自由夢(10月例会)

史跡散歩「目白の歴史的建造物を訪ねる」

日程 10月11日(木)

集合場所 13時10分 J山手線目白駅改札前集合

または、13時45分 和歌塾本館正面玄関横集合(和歌塾本館:文京区目白台1-21-2 都営バス白61系統「目白台三丁目」下車40m)

旅程内容 和歌塾本館(旧細川侯爵邸)と学習院大学の歴史的建造物を見学します。

また、学習院大学図書館に入館して館内を見学します(館内の資料は閲覧できません)。

費用 和歌塾本館の入館料として1,050円がかかります(お釣りのないよう用意してください)。

交通費も自己負担です(目白駅-和歌塾本館間は都営バスを利用します)。

定員 15名(事前申込制。先着順。10月3日より募集開始予定。千早図書館に電話で直接お申し込みください。)

◆千早進歩自由夢(12月例会)

小唄上演会「小唄で綴る江戸の四季-粋でないせせな人・恋・風物-」

日時 12月8日(土)

14時から16時(開場:13時30分)

会場 千早図書館 2階 視聴覚室

出演 唄:飯島ひろ喜 三味線:春日よと稲枝・飯島ひろ喜

内容 今は忘れられつつある古き良き時代「江戸」の情緒を、三味線の音色にのせ小唄で綴ります。どなたでも親しみやすいように、楽しい説明とともに味わっていただけます。「笠森おせん」「三社祭」「紺屋高尾」など、江戸小唄(古典)から現代小唄まで披露いたします。

<飯島ひろ喜プロフィール>

1951年横浜生まれ。横浜・磯子の花街に育つ。家が料亭をしていたことから日本の芸能に自然と親しみ、日舞や邦楽などを学ぶ。現在は、小唄飯島派三代目家元・飯島ひろ喜師のもとで修業中。十数年前より「美浜れい」のペンネームで作詞をし、最近では家元の指導を受け作曲も手掛けている。モットーは「誰でもわかる楽しい小唄をつくること」。ここ数年、シンガポールに教室を持ち若い人々を指導。現地ホテルにてライブもおこなっている。

定員 50名(先着順)

編集後記

うーん暑い。今は9月に入ったところです。といっても読者の皆さんは10月ですよ。しかし、今年の夏は暑かった。ムシムシです。ジャングルにいるようです。行ったことはありませんが。さて、今月下旬からは読書週間が始まります。読書の秋です。図書館であなたに合った一冊を探してみませんか。

上池袋図書館 臨時休館のお知らせ

上池袋図書館は、施設改修工事のため臨時休館いたします。ご利用の皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

期間
平成24年10月9日(火)～12月10日(月)

なお、次の期間は臨時窓口を開設し、以下の業務を行います。

①予約資料の貸出
ただし、上池袋図書館所蔵資料は予約・貸出できません。

②貸出資料の返却

開設日:10月10日(水)～12月9日(日)

(ただし、毎週月曜日はお休みです)

開設時間:平日(火～金) 9時～19時

土・日・祝日 9時～17時

○は土日祝
■は休館日

中央図書館	駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白・千早図書館	蔵司が谷図書貸出コーナー
・開館時間・ 平日 午前10時～午後10時 土日祝 午前10時～午後6時	・開館時間・ 平日 午前9時～午後7時 土日祝 午前9時～午後5時	・開館時間・ 平日 午前10時～午後7時 土日祝 午前10時～午後5時
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
10月	10月	10月
11月	11月	11月
12月	12月	12月

図書館カレンダー